

小津中学校 令和3年度 育成をめざす情報活用能力一覧表(暫定)

活動スキル 様々な情報手段を活用するための知識・技能	A1:記録と編集	目的や相手、情報の種類に応じて、アプリケーションを選択し、資料(文字/映像/音楽等を含む)を編集できる。
	A2:PCの操作	ローマ字入力やファイル管理、クラウド等を用いた協働作業のための操作ができる。
	A3:ウェブ検索	AND, ORなど条件を工夫して検索できる
	A4:図書利用	図書・新聞などメディアの特徴を理解して必要な情報を見つけられる
	A5:インタビュー	インタビュー*が答えやすいように質問の順番を工夫し、意見を引き出すためのやりとり、追加の質問ができる。 <small>*インタビューを受ける人</small>
	A6:アンケート	集計・分析できるように適切な設問文や選択肢を含んだアンケートを作成・集計し、結果から考えをまとめることができる。
	A7:思考スキル	ツールの特徴を知り、適切なシンキングツールを選択して、自分の考えを創り出すことができる。
	A8:プレゼンテーション	「相手に行動を促す」などの目的に応じて、アプリケーションを活用し、プレゼンテーションを作成できる。また、やりとりを含めたプレゼンテーションができる。
創造スキル 「創る」活動を通して、収集した情報を、精査・整理・分析し、まとめ・表現する思考力・判断力・表現力	B1:取捨選択	信頼性や信ぴょう性を考えて情報を選ぶことができる。
	B2:情報の読み取り	アウトプットに向けて、複数情報から共通点・相違点・矛盾点や欠けている情報を見つけられる。
	B3:新しい価値の創造	複数の情報を組み合わせて、多面的に判断し、他者の意見を取捨選択しながら、新たなアイデアを生み出すことができる。
	B4:構成する力	目的や相手に応じ、論理立ててアウトライン(目次)をつくり、内容を構成することができる
	B5:表現の工夫	メディアの特性を理解し、色彩・フォント・映像効果・音響効果等を含めた表現方法を、目的や相手に応じて工夫することができる。
	B6:相手に応じた表現	相手の関心や前提知識に配慮して、伝え方や内容を工夫できる。
	B7:計画の立案と調整	役割分担を考え、ゴールに向けて合理的な計画を立案できる。また、状況に応じ、適宜、計画を修正できる。
	B8:対話と協働	対話しながら考えを生み出すなど、「創る」ために協働することができる。
	B9:批判的考察	他者の成果物に対し、具体的に、助けになるアドバイスができる。
情報モラルと主体的態度 情報社会の特性を理解し、「安心・安全」に配慮しながら、情報社会に積極的に関わろうとする態度	C1:情報社会の特性理解	情報社会の特性を知り、情報社会にどう関わっていくか考えようとする。
	C2:セキュリティ	情報セキュリティの重要性を理解し、パスワード管理等を実施し、自分を自分で守ろうとする。
	C3:個人情報	自他の情報が伝わる範囲を考え、範囲を超えた発信は行わないようにする。
	C4:責任ある情報発信	ネットワークの公共性を意識し、相手によって受け止め方が違うことを理解し、責任ある情報発信を行う。
	C5:法の理解と遵法精神	情報の保護や取り扱いに関する法律の意図を理解し、著作権や肖像権に留意した発信をしようとする。
	C6:ルールとマナー	情報に関するマナーを大切にし、ルールを創造・遵守することで、問題を解決しようとする。
	C7:健康と安全	健康・安全に配慮して、使う場所や時間を自分で管理して情報機器・サービスを活用することができる。
	C8:自己評価と自己調整	振り返りや他者のアドバイスをもとに、改善策を考え実行しようとするすることができる。
	C9:粘り強さ	課題に対して目標を達成するために粘り強く、試行錯誤を続けようとするすることができる。